

城西国際大学   全学（機関レベル）アセスメント・ポリシー

2025年度 アセスメント結果（学部）

| ディプロマ・ポリシー |                                                         |
|------------|---------------------------------------------------------|
| DP1        | 社会人に求められる教養や規範的判断力を身に付け活用することができる。                      |
| DP2        | 論理的かつ批判的思考力及び判断力のもと、身に付けた専門的な知識・技能を活用することができる。          |
| DP3        | 異なる価値観を認め合う寛容さと豊かな表現力を身に付け、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。 |
| DP4        | 国際社会、地域社会、産業界等において、主体的に課題を発見し解決に向けて行動することができる。          |
| DP5        | 生涯にわたり自己研鑽を重ね、自己実現に向けた意欲を示し活動することができる。                  |

| # | アセスメント項目       | アセスメント・プラン                                                         | 対応するDP |     |     |     |     | 責任主体                        |                                                                                       | アセスメント結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---|----------------|--------------------------------------------------------------------|--------|-----|-----|-----|-----|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |                |                                                                    | DP1    | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 |                             |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1 | 入学試験           | 各課程の自己点検にて入学定員充足率（5か年平均）及び収容定員充足率を報告対象として集計しアセスメントを行う。             | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 全学（学部）の入学定員充足率（5か年平均）は0.81（0.42～1.03）で、定員未充足の状況が継続している。過去5年間の推移においても、2021年度の0.93から2025年度の0.69へと低下傾向がみられる。全学の収容定員充足率は0.79（0.47～1.03）であり、収容定員の8割を下回っている。学科別では、収容定員充足率は9学科中2学科で充足しているものの、入学定員充足率は全学科で未充足となっている。今後は、学生募集施策の強化とともに、入学定員及び収容定員の適正化に向けた検討を進める必要がある。                                                                                                                       |
| 2 | 新入生調査          | 入学生を対象に新入生意識調査を実施。結果を集計し回答率及び設問ごとの肯定回答率を算出しアセスメントを行う。              | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 全学の回答数は979名、回答率は98.1%であった。「本学に入学して良かったと思う」（96.1%）、「本学で自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」（98.3%）と回答した学生が極めて多く、入学時点における本学への期待度は高いことが確認された。また、「専門分野の勉強」（60.5%）「資格取得・スキル習得のための勉強」（47.0%）への関心が高く、目的意識を持って学ぼうとする姿勢がうかがえる。一方で、「高い目標を持って学ぼうと思っている」の肯定回答率は73.3%にとどまっているほか、「教養を身につけるための勉強」を挙げた学生は19.3%であった。今後は、専門性の追求に加え、主体的・継続的な学修姿勢や幅広い教養の重要性について理解を深める働きかけが求められる。                                   |
| 3 | 外部ジェネリックスキルテスト | 外部ジェネリックスキルテストの結果を集計し、アセスメントを行う。                                   | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 新入生の受検率は96.1%（うち6学部100%）と高水準である一方、3年生78.7%、4年生71.7%と上級学年で低下しており、受検率向上が課題である。個々の評価結果はアドバイザー面談で活用されており、入学時から4年次までの経年変化では、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」の各スコア変化はいずれも向上している。また、本学の授業が「論理的・批判的思考力」「問題解決力」の向上に役立っていると回答した学生は3・4年次ともに8割を超えており、教育成果が一定程度認められる。一方で、「語学力」の育成に役立っているとの回答は約6割にとどまっている。また、「高い目標を持って学ぼうと思っている」学生の割合は学年進行とともに低下する傾向（76.9%→63.2%）がみられることから、学習意欲の維持・向上に資する教育的支援の充実が求められる。 |
| 4 | GPA（全学）        | 各課程の自己点検にて年間GPA分布と通算GPA分布を報告対象として集計しアセスメントを行う。                     | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 2025年度の学部在籍者における通算GPA分布では、GPA2.0を超える学生が全学で77.2%を占め、平均GPAは2.52であった。また、GPA2.0を超える学生の割合は、1年生74.1%、2年生74.5%、3年生78.6%、4年生81.6%と、学年進行に伴い上昇している。過去4年間においても、GPA2.0を超える学生の割合は76.8～78.9%の範囲で推移しており、概ね安定している。一方で、低学年を中心にGPA2.0以下の学生も約4分の1を占めていることから、学修支援の充実により学業不振学生への早期対応を図ることが望まれる。                                                                                                         |
| 5 | 成績評価（全学）       | 各課程の自己点検にて主要授業科目の選定を実施し、その成績分布状況と単位修得率を報告対象として集計しアセスメントを行う。        | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 主要授業科目の成績分布は、全学でS（20%）、A（33%）、B（24%）、C（14%）、F（7%）であり、大きな偏りは認められず概ね適正な成績評価が行われていると考えられる。また、単位修得率は84～99%であった。一方で、一部学部では不合格率（F）が12%に達しており、単位修得率にも学部間で差がみられる。今後は、成績評価の状況を継続的に点検するとともに、単位修得率の低い学部において学修支援の充実を図る必要がある。                                                                                                                                                                   |
| 6 | 履修状況（全学）       | 各課程の自己点検にて主要授業科目の選定を実施し、その履修登録率を報告対象として集計しアセスメントを行う。               | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 主要授業科目の履修率は、学部・学科により18～96%と大きな差がみられた。履修率が低い学科においては、その要因を分析するとともに、配当年次や開講時期、履修指導の適切性について検証を行う必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 7 | 検定/資格          | 各課程の自己点検にて各検定の受験者数・合格率・（スコア方式検定の場合）平均スコア等を報告対象として集計しアセスメントを行う。     | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 本学では50以上の検定・資格取得が可能であり、MOS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）、ビジネス著作権検定、Webデザイナー検定、BLS（一時救命処置）などの資格・検定試験では、135名中100名が合格し、合格率は74.1%であった。TOEICや日本語能力試験など語学系検定の受験実績も確認された。本学では多様な資格・検定の受験機会を提供している一方、受験生数は必ずしも多くない。引き続き、受験促進に向けた広報や学習支援体制の充実を図る必要がある。                                                                                                                                              |
| 8 | 在学生調査          | 在学生意識調査を実施し、各学部・研究科の自己点検にて調査回答率と各設問の肯定回答率を報告対象として集計しアセスメントを行う。     | ○      | ○   | ○   | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 回答数は821名、回答率は36.3%（25.3～44.0%）であり、昨年度（61.2%）から大きく低下した。回答率向上に向けた具体的な方策の検討が必要である。一方で、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」（94.9%）、「大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している」（92.0%）など教育環境や学習環境に対する評価は高かった。カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの理解度も概ね良好だった（約80%）。他方、「自由に意見を述べたり、議論したりする場が多い」（47.7%）、「周囲の学生の意識が高い」（35.2%）は低水準であり、主体的学習を促進する教育環境の整備が課題である。                                            |
| 9 | 海外プログラム        | 各課程の自己点検にて各海外プログラムの派遣学生数・参加率・（単位認定のある場合）単位修得率を報告対象として集計しアセスメントを行う。 |        |     |     | ○   |     | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 全学で44件の海外プログラムが実施され、延べ387名が参加した。単位取得率は99.1%と高く、各プログラムは適切に運営されていると評価できる。今後は、学生ニーズを踏まえたプログラムの充実を図り、更なる参加者の増加につなげることが期待される。                                                                                                                                                                                                                                                           |

|    |                            |                                                                                                                                 |   |   |   |   |   |                             |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | インターンシップ                   | 各課程の自己点検にて各インターンシップの参加者数・参加率・（単位認定のある場合）単位修得率を報告対象として集計しアセスメントを行う。また、担当部局の自己点検にて正課外インターンシップについて受け入れ先数と参加者数を報告対象として集計しアセスメントを行う。 | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 5学科で26件のインターンシップが実施され、332名が参加した。このうち単位認定を伴うインターンシップは15件であり、225名が単位を取得し、単位取得率は99.6%であった。特にメディア学部及び観光学部では積極的な参加がみられた。実施状況は良好であるが、一方で、卒業時調査におけるインターンシップ科目の充実度に対する満足度は63.5%にとどまっている。今後は、参加機会の拡充や内容の充実を通じて、キャリア形成支援の更なる向上を図ることが望まれる。                                                                                                                                                                                                                   |
| 11 | プロジェクト/ボランティア活動/学会活動/課外活動等 | 各課程の自己点検にて各プロジェクト/ボランティア活動/学会活動/課外活動の参加者・参加率・（単位認定のある場合）単位修得率・活動成果を報告対象として集計しアセスメントを行う。                                         | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | プロジェクト教育は、8学科で21件実施され、421名が参加した。単位認定を伴う20件のプロジェクトにおける単位修得率は93.6%であった。ボランティア活動は、5学科で6件実施され、106名が参加し、単位認定を伴う2件の活動の単位修得率は100%であった。一方で、ボランティア活動数は前年度より減少しており、地域ニーズも踏まえた活動の活性化が求められる。また、学会活動や課外活動も活発に行われているが、活動実績の分類方法や報告様式には改善の余地がある。今後は、活動成果の可視化とデータ管理の充実を図る必要がある。                                                                                                                                                                                   |
| 12 | 地域活動                       | 各課程の自己点検にて各社会連携・社会貢献活動の活動概要のほか、参加者と成果を報告対象として集計しアセスメントを行う。また、担当部局の自己点検にて全学社会連携・社会貢献活動について活動概要のほか、参加者数と成果を報告対象として集計しアセスメントを行う。   | ○ |   | ○ | ○ |   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 学科から30件の社会連携・社会貢献活動が報告され、延べ521名が参加した。地域社会の健康増進、多文化共生、まちづくりなど多様な分野で活動が展開されており、教育・研究成果の社会還元が着実に行われている。今後は、活動件数や参加人数に加え、地域社会への効果や成果についても評価を行うことが望まれる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 13 | 退学率/休学率/進級率                | 各課程の自己点検にて退学率・休学率・進級率を報告対象として集計しアセスメントを行う。                                                                                      | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 全学の退学率は2.6%(1.5～4.5%)であり、目標値である2.0%以下には達していない。全国平均（2.0%）を上回る状況にあることから、退学理由の分析を進めるとともに、早期の学生支援による改善が求められる。一方、休学率は2.0%(0.4～5.4%)であり、全国平均（2.7%）を下回っている。進級率は、2年次進級97.4%、3年次進級 96.2%、4年次進級95.6%（薬学部：5年次進級91.8%、6年次進級75.0%）と全体としては高い水準を維持しているものの、学年進行に伴い低下する傾向がみられる。今後は、退学・休学の未然防止とあわせて、卒業に向けた継続的な学修支援及び進級支援の充実を図る必要がある。                                                                                                                                |
| 14 | 学位授与                       | 各課程の自己点検にて学位授与数・学位授与率を報告対象として集計しアセスメントを行う。                                                                                      | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 2025年度の学位授与数は1,227名であり、学位授与率は最終学年在籍者の94.5%(41.5～100%)であった。薬学部を除くほぼ全ての学部において 95%以上の学位取得率を達成しており、全学として高い水準を維持していると評価できる。今後も適切な学修支援及び卒業支援を継続し、学位授与率の維持・向上に努めることが望まれる。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 15 | 卒業後の進路                     | 各課程の自己点検にて就職率と進学率を報告対象として集計しアセスメントを行う。                                                                                          | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |    | 全学の実質就職率は、81.4%（44.4～100%）であり、前年度と概ね同水準で推移している。一方で、学部間の差が大きくみられることから、個々の学部の状況に応じたキャリア支援の充実が求められる。大学院進学率は0.7%(0.0～3.4%)であり、前年度と比較して増加している。今後は、就職支援体制の更なる充実とあわせて、進学希望者に対する進路支援も強化し、進路決定率の向上を図る必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                |
| 16 | 卒業時調査                      | 8月度卒業生及び3月度卒業生を対象に卒業生意識調査を実施。結果を集計し回答率及び設問ごとの肯定回答率を算出しアセスメントを行う。                                                                | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 卒業時調査(秋季卒業生を除く)の回答者数は504名、回答率は41.1%(4.0～74.1%)であった。回答率は十分とは言えず、調査実施時期や実施方法について検証し、改善を図る必要がある。一方、「JUUでの成長を実感した」と回答した学生は89.4%に達しており、「社会のルールや人との約束を守る力が向上した」（92.0%）、「専門分野の知識が向上した」（91.0%）、「意見の違いや立場の違いを理解する力が向上した」（91.0%）など、多くの項目で高い肯定回答率が得られた。「学部・学科に満足している」は85.3%であり、学生満足度も高い水準であった。一方で、「英語に関する能力」及び「その他外国語能力」の向上を実感した学生は比較적少なく、今後は、外国語教育や国際的な学修機会の充実について継続的な検討が求められる。                                                                             |
| 17 | 検定/資格（国家資格）                | 各課程の自己点検にて各国家資格の受験条件充足率・受験率・合格率を報告対象として集計しアセスメントを行う。                                                                            | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 本学では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、理学療法士、薬剤師、看護師、保健師、助産師の8つの国家試験を受験している。受験率は2つの国家試験で100%を達成している。合格率（既卒者を含む）は31.0%～100%と国家試験ごとに幅がみられるが、介護福祉士、看護師、保健師及び助産師については全国平均を上回る結果となった。一方で、全国的傾向と同様に、既卒者の合格率は低い状況にある。今後も各資格・職種の特性を踏まえながら、新卒者及び既卒者に対する受験支援を継続し、合格率向上に向けた取組を充実させる必要がある。                                                                                                                                                                                  |
| 18 | 養成課程                       | 各課程の自己点検にて各養成課程の修了者数・修了率を報告対象として集計しアセスメントを行う。                                                                                   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 教職課程の登録者数（最終学年開始時）は65名であり、修了者数も65名であったことから、修了率（資格取得率）は100%であった。教職課程以外にも、日本語教員、児童英語指導員、介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士、保育士、理学療法士、薬剤師、看護師、保健師及び助産師など多様な養成課程を設置し、1学科において複数の資格を取得できることは、本学の特色の一つである。一方で、登録者数が極めて少ない課程もみられることから、社会的ニーズや教育資源の状況を踏まえながら、養成課程の在り方について継続的な検証を行うことが望まれる。                                                                                                                                                                                |
| 19 | 卒業生（OB・OG）調査               | 本学卒業生を対象に卒業生アンケートを実施。結果を集計し回答率及び設問ごとの肯定回答率を算出しアセスメントを行う。                                                                        | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 |  | 卒業生調査は、2026年2月に、2015年、2020年及び2022年の卒業生2,649名を対象としてオンライン回答形式で実施した。回答者は93名で、回答率は3.5%にとどまり、結果の代表性を確保する観点からも回答率向上が大きな課題である。回答結果では、在学中に積極的に取り組んだこととして「専門分野に関する勉強」（88.2%）、在学中に身に着いたと感じる能力では「学科の専門知識」（84.9%）の肯定回答率が高く、本学の専門人材育成の成果が確認された。このことから、ディプロマ・ポリシー（DP2）の達成状況は概ね良好であると評価できる。一方で、ボランティア活動への参加割合は22.6%と低く、外国語能力及びIT能力が身に付いたと回答した割合も33.3%にとどまった。これらの結果から、ディプロマ・ポリシー（DP3・DP4）の達成に向けた教育・学修支援の更なる充実が求められる。また、卒業生との継続的な接点を強化し、調査方法の改善による回答率向上に取り組む必要がある。 |

※アセスメント結果の（○○～○○）は、学科別の（最小値～最大値）を示す

緑：良好、黄：改善傾向・進行中、赤：改善課題、色なし：評価不能・未評価

城西国際大学 全学（機関レベル）アセスメント・ポリシー

2025年度 アセスメント結果（大学院）

| ディプロマ・ポリシー |                                                          |
|------------|----------------------------------------------------------|
| DP1        | 幅広い専門的知識・技能及び学際的視点を修得、社会において説明能力・指導力を発揮することができる。         |
| DP2        | 深い人間理解のもと、創造的かつ批判的思考力及び構想力を発揮し、社会の課題解決に向けて行動することができる。    |
| DP3        | 公正な視線のもと、主体的かつ協働的にリーダーシップを発揮し、国際社会、地域社会、産業界等に貢献することができる。 |

| #  | アセスメント項目                               | アセスメント・プラン                                                   | 対応するDP |     |     | 責任主体                        |             | アセスメント結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------|-----|-----|-----------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                        |                                                              | DP1    | DP2 | DP3 |                             |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 1  | 入学試験                                   | 入学定員充足率及び収容定員充足率によりアセスメントを行う。                                | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 入学定員充足率（５か年平均）は1.13(0.47～1.72)、収容定員充足率は1.24(0.58～1.83)であり、全体として定員を充足している。一方で、研究科間の差がみられることから、定員未充足の研究科においては要因分析と改善に取り組むとともに、定員超過の研究科においては教育研究の質保証の観点から研究指導体制や教育環境への影響を継続的に点検する必要がある。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 2  | GPA                                    | GPA分布によりアセスメントを行う。                                           | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 2025年度大学院在籍者の通算GPA分布では、GPA 2.0を超える学生が96.6%、平均GPAは3.03であった。大多数の学生が一定以上の学修成果を達成しており、学位授与方針に沿った学修成果が概ね修得されていると評価できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 3  | 成績評価                                   | 成績分布及び単位修得率によりアセスメントを行う。                                     | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 2025年度の単位修得率は84%であったが、研究科間で23%～100%と差がみられた。大学院では研究指導科目や学位論文作成との関係から、最終学年における単位修得状況も含めて評価する必要がある。成績分布は全学でS（36%）、A（34%）、B（12%）、C（2%）、F（1%）であり、C及びFは合計3%にとどまっていることから、設定された学修目標は概ね達成されていると考えられる。                                                                                                                                                                                                                                  |
| 4  | 履修状況                                   | 履修登録率によりアセスメントを行う。                                           | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 配当学年における履修率は研究科によって27～81%と差がみられた。大学院では研究活動との関係から履修時期が分散する場合もあるため、在学期間全体を通じた履修計画との整合性を確認するとともに、履修率の低い研究科については必要に応じて科目配置や配当学年の見直しを検討する。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 5  | 在学生調査                                  | 在学生意識調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。                        | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 全学の回答数は86件、回答率は30.9%（0.0～37.2%）であった。回答率向上に向けた具体的な方策を検討し、より多くの学生の意見を収集できる体制を整備する必要がある。「目標・カリキュラム・授業内容の理解」に関する肯定回答率はほぼ100%と高い水準であった。一方で、「周囲の学生の意識が高い」（62.3%）、「留学・国際交流支援に満足」（70.5%）、「授業が語学力向上に役に立っている」（77.6%）、「就職・進路支援」（73.5%）は他項目と比較して低い傾向がみられた。これらの結果を踏まえ、学習環境の活性化、国際交流支援の充実、語学教育の効果向上及びキャリア支援体制の強化に向けた改善策を図る必要がある。                                                                                                            |
| 6  | 海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等 | 各海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。 | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 課題活動については同一研究科から2件の活動報告があり、国際シンポジウムへの参加等が行われていた。学会発表については10学会で12演題の発表があり、そのうち1演題は国際学会であった。一方で、ボランティア活動、プロジェクト活動、インターンシップ、海外プログラムへの参加報告はなかった。今後は学会発表数の増加を図るとともに、国際学会への参加・発表を積極的に推進する必要がある。また、ボランティア活動やインターンシップへの参加機会を拡充し、社会実践力やキャリア形成の支援・取組を推進する必要がある。さらに、各種調査結果において海外留学制度や国際交流環境に対する評価が十分高いとはいえないことから、国際交流機会の充実についても検討する必要がある。                                                                                                |
| 7  | 地域活動                                   | 各地域活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。                                  | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 2研究科から2件の地域活動報告があり、延べ38名の学生が参加した。都心部地区を多世代交流の場へと変貌させる試みや、社会人を対象とした講座の開講等が実施された。ディプロマ・ポリシーに掲げる社会課題の解決に向けた実践力やリーダーシップの育成を更に推進するため、地域との連携活動への参加機会を拡大する必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 8  | 退学率/休学率                                | 退学率及び休学率によりアセスメントを行う。                                        | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 2025年度の退学者数は13名で退学率は2.55%、休学者数は11名で休学率は2.16%であった。年次推移では退学率は過去4年間において減少傾向にあり、休学率も一時的な変動はみられるものの全体的として減少傾向にある。引き続き学生支援体制の充実を図り、退学・休学の未然防止に努める必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 9  | 検定/資格（外部語学検定試験含む）等                     | 各種検定・資格の受験条件充足率、受験率、合格率等によりアセスメントを行う。                        | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 2025年度において検定・資格取得者は確認されなかった。大学院教育における資格取得の位置付けは研究科によって異なるものの、今後は、学生の専門性向上やキャリア形成に資する資格・検定については、ニーズを把握した上で支援方策を検討する必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 10 | 学位授与                                   | 学位授与数によりアセスメントを行う。                                           | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 学位授与数は、修士197名、博士8名（課程博士6名、論文博士2名）であった。学位授与率は修士97.0%(85.7%～100%)、課程博士100%、論文博士100%であった（提出論文数を母数）。いずれも高い水準を維持しており、学位授与方針に基づく適切な研究指導と学位審査が行われていると評価できる。今後も学位審査の厳格性を維持しながら、継続的な質保証に取り組む必要がある。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 11 | 修了後の進路                                 | 就職率及び進学率によりアセスメントを行う。                                        | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 249名の修了生に対し、就職希望者を母数とした就職率は91.2%であり、高い水準を維持している。一方、実質就職率は38%であったが、留学生比率の高い研究科では進学や帰国等の進路選択が多いことが要因として考えられる。研究科によって進路状況に差がみられることから、今後も学生の多様な進路希望に応じた支援を継続し、進路実現に向けた取組を充実させる必要がある。                                                                                                                                                                                                                                              |
| 12 | 修了時調査                                  | 修了時調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。                          | ○      | ○   | ○   | 大学運営会議・教学マネジメント会議・全学点検評価委員会 | <div></div> | 修了時調査(秋季修了者を除く)には81名が回答し、回答率は50.3%(19.2%～100.0%)であった（重複回答の可能性あり）。回答率の更なる向上に向けて、調査時期や実施方法について継続的に検討する必要がある。JUUでの成長を実感したと回答した者は99.5%であり、特に「専門分野の知識の応用力の向上」（98.4%）「現状を分析し目的や課題を明らかにする力の向上」（98.4%）について高い評価が得られたことから、大学院教育の主要な成果が達成されていると評価できる。一方で、「英語に関する能力」（44.7%）「その他の外国語能力」（31.9%）の向上に関する評価は相対的に低く、「海外留学制度が充実している」と回答した者も約半数（53.4%）にとどまった。今後は、語学力向上支援や国際交流機会の充実を図る必要がある。なお、学生生活全体については95.8%が「学部・学科に満足」していると回答しており、高い満足度が確認された。 |

※アセスメント結果の（○○～○○）は、学科別の（最小値～最大値）を示す

緑：良好、黄：改善傾向・進行中、赤：改善課題、色なし：評価不能・未評価